



営農NEWS



半促成メロンの病害虫発生に注意しましょう

ハウス半促成メロン栽培では、これから果実収穫期まで、茎葉に発生する病害虫には十分な注意が必要になります。

メロン栽培で生育の中～後期に発生してくる主な病害虫として、つる枯病、菌核病、うどんこ病、べと病、アブラムシ類、ハダニ類などがあります。各病害は、いずれも多湿条件や曇雨天が続くと多発生し、やや肌寒い（20℃以下）場合は菌核病が、平年～やや高温（20℃以上）だとべと病、つる枯病、うどんこ病が発生しやすい傾向があります。アブラムシやハダニ類は、高温乾燥条件を好み、ハウス内や周辺に害虫の寄生植物や雑草があると、そこから移動してきて増殖します。

県病害虫防除所の病害虫発生予報 4 月号によりますと、メロンつる枯病の発生がやや多いと予想されています。

【防除対策のポイント】

- 1) 下葉や葉の込み合っている場所の葉裏などを丁寧に観察し、病害虫の早期発見に努めましょう。
- 2) 病害虫の発生を確認したら、必要に応じて早期防除に努めてください。薬剤散布の場合は十分量の薬液で、葉裏や下葉にもよくかかるよう丁寧に行うことが特に重要です。なお、収穫前日数に注意して、薬剤を選択してください。
- 3) 薬剤耐性菌や抵抗性の発生を抑制するため、系統の異なる薬剤でローテーション散布してください。

表 1 メロンのつる枯病、菌核病、うどんこ病、べと病、斑点細菌病の主な防除薬剤（平成 27 年 4 月 1 日現在）

対 象 病 害					薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
つる枯病	菌核病	うどんこ病	べと病	斑点細菌病			
○	○	○			ベルコートフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
○			○	○	ジマンダイセン水和剤	400～600 倍	収穫 7 日前まで / 5 回以内
		○	○		ダコニール 1000	700 倍	収穫 3 日前まで / 5 回以内
○			○			700～1,000 倍	
○			○		プロポーズ顆粒水和剤	1,000 倍	収穫 3 日前まで / 5 回以内
○	○				ロブラール水和剤	1,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
	○				カンタスドライフロアブル	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
	○				スミレックス水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
		○			フルピカフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
		○			ガッテン乳剤	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
			○		ランマンフロアブル	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
		○		○	カスミンボルドー	1,000 倍	収穫 3 日前まで / 5 回以内

表 2 メロンのアブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類の主な防除薬剤（平成 27 年 4 月 1 日現在）

対 象 害 虫					薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ影響 日数(目安)
アブラムシ類	ハダニ類	アザミウマ類	コナジラミ類	ハモグリバエ類				
○	○		○		サンマイトフロアブル	1,000～1,500 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内	4 日
○		○ミナミ	○		ベストガード水溶剤	1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内	6 日
		○	○タバコ		ディアナ SC	2,500～5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	3 日
			○			2,500 倍		
	○		○	○	コロマイト乳剤	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	1 日
	○	○	○タバコ		アグリメック	500～1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	—
○	○	○	○		モベントフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	□
○			○		ウララ DF	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○
			○			2,000 倍		
	○				ダニサラバフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	□
		○ミナミ	○タバコ	○トマト	カスケード乳剤	2,000～4,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内	1 日以上
			○			2,000 倍		
		○ミナミ、ミカン		○	アフファーム乳剤	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	2 日
						2,000 倍		

注) ①表中の○ミナミはミナミキイロアザミウマ、○ミカンはミカンキイロアザミウマ、○タバコはタバココナジラミ類、○トマトはトマトハモグリバエで農薬登録されています。 ②ミツバチ影響日数(目安)は、27 年版県防除指針から、1 日は 24 時間影響あり、□は翌日導入可、○は乾けば当日導入可、—は掲載なし不明を表します。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040